東京家政学院大学紀要　第四五号　二〇〇五年

史料「大正九年度　女学校日誌」

江原絢子
木瀬智子*

この日誌※は、和綴じの表紙に「日誌 大正九年度　大正九年四月より十年三月迄」と記された学級日誌で、中扉には「大正九年度　女学校日誌　卯月 皐月 水無月 乃巻」とあるが、四月から三月まで、毎日の学校での授業、行事の様子を当番に当たった生徒が交代で墨書したものである。どこの女学校なのかは、表書きなどでは明らかではないが、文章を読んでみると、「私立成蹊女学校」の日誌であることがわかる。

『成蹊学園六十年史』（一九七三年　以下「六十年史」とする）によれば、成蹊女学校は、一九一七（大正六）年四月に開校した女学校である。「六十年史」には「高等女学校令に基づくものではなく、ふつうの女学校であった」と記しているだけであるが、位置づけとしては各種学校と思われる。

近代の学校制度では、中等教育レベルの学校は、男子と女子が異なる教育課程をもっていただけでなく、複数の学校の種類がある。大正期には、女子の中等教育進学率が増加し、この時期女子が進学した学校には、高等女学校、実科高等女学校、実業学校（農業、商業、職業学校など）、女子師範学校、各種学校などがある。各種学校は、高等女学校令、実業学校令などの規程に基づかない学校で、キリスト教系の学校などその教育の独自性を保つためにあえて各種学校の位置づけにあった学校も多く、成蹊女学校もその教育内容などから見て、教育の独自性を重んじて各種学校として開校したと考えられる。

校舎は、現在の西池袋から目白付近の「上がり屋敷」の一角に新築された。その一帯は江戸時代には徳川家の狩り場で将軍吉宗が休憩所を作ったことから「お上がり屋敷」と呼ばれていると伝えられている。女学校は、「東京府北豊島郡高田村目白」（成蹊学園史料館展示より）に位置しており、修業年限四年、一学年二十人の小規模の学校である。目白駅から池袋に向かいＪＲの線路に沿って三～五分歩いたところにあった。成蹊女学校創立の四年後の一九二一年には、そこからすぐ近くの池袋寄りに羽仁もと子夫妻が自由学園を創立する。「六十年史」によれば、羽仁夫妻は自由学園創立について、成蹊女学校の中村校長にしばしば相談に訪れていたという。目白側には、学習院、日本女子大学校がすでに開校され、池袋側には、豊島師範、神学院もあり学園地区でもあった。

その後成蹊女学校は、一九二一（大正一〇）年四月には、成蹊高等女学校となる。一九二四年、成蹊学園は新設の七年制成蹊高等学校発

足とともに現在の吉祥寺に移転するが、成蹊高等女学校は目白にとどまり、一九三五（昭和一〇）年、学園から分離独立して新たに財団法人東京成蹊高等女学校として再発足する。しかし、空襲により校舎が全焼するなどのため、戦後は財政的に苦況にたち、一九五一（昭和二六）年に新学制のもとで成蹊女子学園となったものの、一九五四（昭和二九）年には、成蹊学園と合併し、在校生は成蹊高等学校に編入された。（「六十年史」）

成蹊女学校は、それ以前に開校されていた成蹊実務学校、成蹊中学校、成蹊小学校を創立して校長となった中村春二の女子教育への構想を中心に設立された。中村校長は、東京帝国大学を卒業後、一九〇六（明治三九）年、学生塾成蹊園を開設し、一九一二年には成蹊実務学校を創立して校長となる。中村は、自分の地所を処分して、目白駅近くの上がり屋敷に新たに敷地を購入し、さらに借地を加えて校舎を新築している。中村は、教育の中に心身鍛練方式および精神統一による「自研自習方式」などそれまでの教育方法に加え、時事問題などに対する師弟間の対話や頻繁に旅行、遠足を取り入れる教育を実践した。校舎は、講堂、教室、作法室、割烹室、職員室と小教室のほかに茶室、農場、運動場を設け、女子高等師範学校卒業生であった栢野ヒサを女学校教務主任とし、教育方針を固めたという。

資料の日誌は、現在筆者（江原）個人の所蔵であるが、おそらく成蹊女学校関係者から古書店にわたったと思われる。女学校開設の四年目の一九二〇（大正九）年四月から翌年三月までの学級日誌で、毎年まとめられたものと思われる。翌年の一九二一（大正一〇）年度から高等女学校としてスタートをすることになるため、本資料は「女学校」として最後の年度の日誌という点で特徴があり、日誌にもその記述がみられる。紙幅の関係で、今回はその四分の一程度を紹介することになるが、今後引き続き紹介を続ける予定である。成蹊学園史料館には、「女学校日誌」は、一九二一（大正一〇）年から戦後の一九四九（昭和二四）年までは残されており、『東京成蹊高等女学校日誌―昭和三年から同二十四年までの抄録』として小冊子にまとめられたものもある。しかし、「女学校」時代の日誌は残されていないようなので、紹介する意味はあると思われる。

成蹊女学校の教育の特徴をいくつかあげると、その一つは「凝念法」である。これは、中村校長が他の学校でも実施してきた精神統一法で、成蹊教育の根底となったという。この凝念法は、端座して目を閉じ、雑念を取り払い、無念無想の境地に身を置くものである。授業開始前の三十分間、全員この凝念法をおこない、精神修養をおこなった。また、「心力歌」を唱和することも成蹊学園の特徴といえる。これは、精神力の偉大さをうたった心の力（心力歌）全八章を凝念の際に唱和するものであった。たとえば第二章「心に力ありといえども、養はざれば日にほろぶ。・・・・」というような内容を暗誦させ、毎日一章から全章を空で詠唱したという（「六十年史」）。また、茶の湯、謡曲なども重視し、東大文学部出身の奥田正造を講師に招聘し、茶の湯を正課として教授させた。茶室「不言庵」で、茶の湯の根本精神を学んだ。

「六十年史」により一九二〇（大正九）年度の女学校職員をみると、前年まで校長だった中村春二が交代し、奥田正造が校長になっている。奥田は、観音経を誦じさせ、茶道を根幹とするより仏教的色彩の濃い教育をおこなったというが、資料の時期には、中村前校長の教育方針も色濃く残されていたといえよう。当時の教員、生徒への聞き取りによれば、「中村先生」の教育は、恋愛についても否定的ではなく、箱

根のテント生活など楽しい思い出が多かったが、「奥田先生」は、写経などがとても眠く、お汁粉屋に行くのは罪悪というような感覚で、卒業生とも親しくなかったと述べている（「成蹊学園史料館年報」二〇〇三年度）。

設置されていた科目は、修身、国語、漢文、地理、理科、家事、割烹、裁縫、習字、図画、音楽、数学、教育、歴史、英語、園芸など高等女学校の教育課程にもあるものに加え、謡曲、仕舞、琴、看護学、薙刀、弓道が加わっている。割烹には、赤堀峯吉の名も見える。

また、日誌から大正九年度の年間行事をまとめてみると、次のような行事がある。

※「大正九年度　女学校日誌」個人蔵

成蹊女学校　大正九年度　学校行事

四月・・・五日　始業式
六日　新入生歓迎会
八日　花まつりの会（小学校にて）…釈尊の降誕日
二十三日　沢庵禅師・真淵先生の御墓参り（八ッ山）
二十九日　靖国神社大祭につき臨時休業
五月・・・十四～十五日　箱根旅行
二十八日　体格検査　徹夜会
六月・・・五日　英語会
十五日　体格検査（身長・胸囲）
二十二日　音楽会
二十五日　小学校音楽会
七月・・・八～十五日　箱根旅行
十七日　茶話会
十九～九月十三日　夏の学校
二十六～三十一日　特別講習
三十日　明治天皇祭につき休課
八月・・・三日　岩崎男爵お誕生日の式（講演）
十～十六日　夏期休業
十七日　茶話会
二十五日　賛助員岩崎久彌男爵のお誕生日の式
二十六日　羽田へ遠足
九月・・・十三日　乃木会
十六日　二学期
十月・・・八日　体重測定（中学校にて）
三十日　教育勅語下賜三十年記念の式
十一～十三日　日光旅行（一、二、三年）
十五日　茶話会
十一月・・一日　明治神宮の御鎮座祭（中学校にて）
四～十七日　四年生修学旅行
六日　成蹊美術展覧会（中学校にて）
二十日　旅行のおみやげ話会　英語会
二十二日　児童衛生展覧会（四年生）
十二月・・七～八日　徹夜会
二十日　お餅搗・忘年会
二十一～二十三日　断食会
二十四～一月九日　冬季休業
一月・・・十日　新年の祝賀会

二十二日　今村賛助員誕生祝賀会
二月・・・三日　節分豆まき
十一日　紀元節
三月・・・二日　おひなさまの会
五日　音楽会（学園全体）
十二日　送別会
十三日　卒業式
二十日　修業

大正九年度

女学校日誌　**卯月**　**皐月**　**乃巻**　**水無月**

四月五日　月　雨

新しく一年の方をおむかひして今日から急ににぎやかになりました。二三四年は各受持ちのお掃除。九時過きから始業式か開かれました。

一、凝念
一、観音経偈（げ）
一、主事訓話（教室の改良）（月謝の変更）
一、先生方の御紹介
一、新旧生の引合せ
一、中村先生の御話（校風の大体）
一、心力歌

十二時頃終りました。四年生はお割烹室をかたつけてかへりました。

四月六日　火　雨

午前中はお稽古をして午後から一年生の歓迎会をする事になりました。今日は中村先生の凝念で御座いましたけれどもいらつしやいませんでした。お掃除の時は四年生が指導及お手つだひに参りました。そしてお掃除道具をそろへました。一時からいよ〳〵歓迎会が初まりました。（ママ）

新入生歓迎会次第

開会の辞　四、後藤
挨拶
唱歌（桜）　三年全体
ピアノ　二、山脇
仕舞　三、野口、小野
つゞみ　三、伊藤
唱歌　二年全体
琴　四、後藤　三、松村
ピアノ　四、佐伯
仕舞　二、高橋、花井
独唱　二、草村
ピアノ　四、田中
余興（改心）　二年
ピアノ　野田
仕舞　四、中村
合唱　三、牧野、大原
三、佐川
伴奏
余興（田舎の婦人会）　三年
ピアノ　研究生、沼沢

わらひ　　一同
閉会の辞　　四、香取

開会の辞の後中村先生が各国のおじきをおしえて下さつて、その国のふだのいつた人はその国のおじきをする事になりました。随分面白う御座いました。終りにはわらひといふを致しました。ハンケチを上に上げておいて上ける時は笑ひ、下に落ちたらば笑はない事。

今日は中村先生がいろ〳〵おもしろい余興をさせて下さったのでうれしゆう御座いました。二年の余興、三年の余興いづれもたのしい内に会は閉されました。また春雨はやみませんでした。

四月七日　水　晴

凝念の時いつものならひ方と火曜日のならひ方のおけいこを致しました。長刀の時実践の方がお出になってして見せて下さいました。お声の大きいのには感心致しました。明日のお琴か今日に変更致しました。かへりの唱歌は窓の友の中にあるのを致しました。

四月八日　木　晴

今日は釈尊の降誕日で午後から小学校に行き花まつりの会がございました。花見堂は去年より小さいのを女学校で作りました。

花まつり次第

一、凝念法
二、心力歌　第一章
三、供花
四、講話（釈尊）児玉先生
五、お伽ばなし　諸先生
六、余興
一、お客様　小四年女
二、あられ　五年女
三、めくらとつんぼ　六年女
四、早口のうた　五六年女
五、ピアノ（唱歌）　二三年女
六、お馬　三年男
七、ピアノ　外山
八、ピアノ　二、今村
九、琴（六段）　三、松村、牧原
一〇、仕舞（富士太鼓）　四、後藤
一一、唱歌（岸の桜・海楼眺望、菩提樹）二年以上
一二、昔ばなし（唱歌）　全体
その他番外として橘先生・小林先生の独唱がございました。
七、心力歌　第八章
八、茶果　以上

女学校でばかり会をして居る私たちには小学校のあどけないかはゆらしいのが何よりおもしろう御座いました。会が終って配られたおせんべいを頂いて居るうち、日はだん〳〵と西に傾いて講堂の硝子窓に美しく照ってをりました。一度女学校に帰りそれから直に分れました。

四月九日　金　晴

今日から自彊術がございました。一年の方ではじめてなさった方は大分おこまりのやうで御座居ました。午后実務学校の方の音楽の先生草川先生がおみえになり窓の友の中を二三おうたひになっておきかせ下さい、これから女学校の方へも色々お世話して下さいますそうです。

学校の色々の工事もだん出来上って参ります。家事室はもうすっかり出来、今職員室がなほされています。今日はかべをこわす音がやか

ましう御ざいました。今日応接間に六枚屏風の美しいのが立てられました。よく拝見致しますと此の間まで村田先生のおへやにあった白い屏風に大沼先生が絵をお書きになったのでございました。海岸の景色で大へん気持ちのいゝ絵で御座居ます。

四月十日

目白のとほりの桜も大分ひらきました。今日は井戸のそばのどぶをなほして居るので中々好いにほひがします。このごろ校舎の中を大工さんがなほして居るのでうるさくて〳〵御話がちっともきこえませむ。暫く目で御飯を頂きました。

午後から一年と四年とは園芸であつた。家事室の中はゆかになにかぬったので当分は入れないでせう。昨日唱歌して頂いた草川先生に火曜日に来て頂き、ヴァィオリンをして頂くお話がありました。明後日は女学校の唱歌の先生が御いで下さるとの御話もありました。

四月十二日　月　晴

晴ばれしたよい天気でした。一年の方は大分自彊術のやりかたがおわかりになつたやうです。午後音楽の渡辺先生がいらっしやつたので食堂で中村先生から御紹介がありました。そして三年、四年、一年と順に教へていたゞきました。終りの時間四年は桑畑、三年生は草取等致しました。桑畑はじゃがいもを蒔くのだそうです。

鼓をしていらっしやる方は講堂で御座いました。溝の普請も出来上り家事室と食堂の床の上が奇麗にぬられました。教員室、応接間の手入れも大分出来上りました。時間割変更の発表が御座いました。

四月十三日　火　晴

はじめて、来た順にすわって校長先生の御指導を受けました。朝から渡辺先生がおみえになつて、ピアノの音がにぎやかにきこえて居りました。お昼のお菜は切り干しで御座いました。お昼から此間の橘先生と小学校の小林先生がおみえになり、気持のよい歌を聞かせて下さいました。観世先生や、永島先生も御一しょに、大原さんと沼津さんの御母様がおみえになりました。それから三年の方の心のこもつた草餅を御馳走になりました。幸子さんが、「はしめて作りましたからへんで御座います」とお断りになりましたが、中々結構で御ざいました。

お帰りの唱歌の時、小林橘両先生もご一しょに御うたひ下さいました。もう桜も盛りをすぎまして、今度は寒に知られぬ雪と降って、見事に終るので御ざいませう。

四月十四日　水　曇後雨

今日は朝からくもってをりましたが、お昼頃からとう〳〵雨が降って参りました。おひるの御はんの後奥田先生から「約束の期日をまもる事。」と「風来物の中に見覚えのあるものがあつたら取る様に。」といふことについてお話がありました。絹糸のやうな春雨とおもったのに、だん〳〵つよくなり、風さへ加はって参りました。皆様お帰りになるのにさぞお困りになつた事でございませう。

長刀の試合のお道具（面、胴、こて、臑当）がまいりました。近いうちには試合を拝見することが出来ませう。

四月十五日　木曜日

お花見〳〵と申してをりましたのに、もう今日あたりは風に誘はれてはら〳〵と散って居ります。もうわかはがでゝきました。わか〳〵しいみどりとうすもゝいろのうつりはほんとによいものです。

凝念の時には観音経と心力歌第八章を唱ひました。午後からの御割烹は三四年とも女学校になって今日はじめてゞした。三年はお惣菜を四年は西洋料理を致しました。

大工さんなどの手入もほゞできたと見えて今日はきて居ませんでした。いろ〳〵のところかだん〳〵都合よくなって参ります。

四月十六日　金曜日

朝自彊術も大分人数が多くなったのでにぎやかになりました。凝念法の時には観音経と心力歌の第一章を唱ひました。午前に一時間たけ一年におは入りになった新しい方々は中村先生の凝念法がありました。

御食事の時には大内先生も召し上がつて下さいました。

お昼のお遊び時間等には一年の方々はにぎやかにうんどう場で遊び、二三人の人はスケート等をし、それはそれはにぎやかです。此頃は図書室もだん〳〵人かは入るやうになりました。かへりの唱歌の時に垣内先生もお見えになっていらつしやいました。

四月十七日　土曜　晴

お茶の時後で先生が茶通箱をしてみせて下さつた。

参観の方がいらっしやった。六時間目の家事は漢文と変更す。何も用意して居らなかったのでお話を伺ふ。かへりの唱歌は寄宿舎の古釣瓶、ローレライ、たるまさん、此の三つを歌ってかへった。

四月十九日　月　晴

この間まできれいに咲きそろつていた桜も此間の雨と春風のために皆散って終ひました。凝念法の時は観音経と心力歌の第三章をしました。今日は又屋根をなほす為に職人が入って居りました。大内先生は今日おくれていらっしやいました。おねぼうをなさつたそうです。お昼の御はんの後で奥田先生のお話が御座いました。

講堂の物置の所のお琴のおき方やお机のならべ方などの御住意そして前の人のおいてあった通りにおいておく事をお話になりました。渡邊先生がいらっしやいました。二年の方はピアノをしていらつしやいました。此間一年の方のお植えになった隣に又馬鈴薯をうゑました。

帰りの唱歌の時は先生にひいて頂いて、菩提樹、故郷の廃家、旅泊、夕の鐘を致しました。

四月廿日　火　晴

今日から中村先生の国語が垣内先生になりました。

四年は平家物語をするさうで御座居ますが、今日はまた本かこないので三四年は先生が外国に行ってお出になった時にお感じになったことのお話がございました。唱歌とピアノの時間が今日から変るはずで御座居ましたが、御存じない方が多かったので、今日だけは今までの通りに致しました。此頃は一年の方がおはいりになったゝめか、お食事後の運動が盛になりました。

四月廿一日（晴）　水曜日

花ぐもりとでも云ふのか朝のうちはあまり晴れて居りませんでしたが、十時ごろからはよいお天気になりました。今日学校に来て第一に目についたのは珍しい桜の花でした。掲示板には「鬱金の桜」と書いてございました。花びらが青みがゝって居ります他は普通の桜と同じやうでございました。午後からの長刀の時、道具をつけて、先生と試合を致しました。何だかきうくつでやりにくうございました。今日は三四人ぐらいきり致しませんでしたが、これからは皆やる事になるでせう。今度からピヤノ・仕舞・琴など課外のものゝ新加入は学期始めとして途中でよす事の出来ない様になりました。唱歌は「岸の桜・寄宿舎の古釣瓶」「ヲーターロー」をして帰りました。

四月廿二日　木曜日　晴後曇一時雨

一年の方も自彊術は大分お上手におなりになりました。凝念の後で陰徳のお掃除の事や先生方にお目にかゝつた時の御挨拶の事に付て奥

田先生のお話が御ざいました。御昼食後校長先生が明日岩崎さんへゆく事のお話になりました。皆うれしさうで御座居ました。
午後雷がなり雨がふり出しましたが、帰る頃は晴れました。
桜の花が咲いた。ほら散りはじめたと云つているうちにも早や散りつくして若々しいあを葉と変りました。

四月廿三日　金

八時半までに八ッ山に集りまして、それからてく〳〵沢庵禅師の御墓まであるきました。墓碑のかはりに大きな石が二ッあるきりで、何となくものたりないその足で真淵先生の御墓も詣でた。どこと云う事なしに好い感がする。十時ころ岩崎さんの御宅に着いた。例の草原で思ひ〳〵十二時まであそんだ。おひるに例のもなかをいたゞきました。
足をあらった時にはあまりかけたので、もゝの所がいたい方も少なくはありませんでした。午後からお宅の中を拝見させて頂きました。御茶の御話の時伺つた事が時々と思ひあたります。見はらしの好いところへ行く時にはくる〳〵〳〵自分がのぼるのか、はしごにひきまはされて居るのか夢中でのぼりましたが、その目的のところは目の下にはひろい御庭の青い草とその間の花とが美くしくかゞやき、品川おきの汐干がりをして居る人がえの中に動き、はこねの二子山がうすぼんやり見えて何とも云へぬよい気持になりました。
別れを惜みながらほこりのひどい所をぬけ今村さんの御宅に参りました。入るとすぐ日本の家と云うような事が思はれます。
今まではどことなく西洋式の様に思はれて居たのですぐ御庭を見せて頂きました。そして御茶室も見せて頂きました。山路のようになつて居る御庭をつたつて御家の中を拝見させて頂きました。一とほり見せて頂いてから中村先生に沢庵禅師の精神統一と云う事に付いて御話を伺ひました。そして終つてから四時ころ各家路にむかひました。

四月二十四日　土

凝念の時奥田先生が、昨日今村さんのお宅に上つてお茶をいたゞきました時、中村先生がおはいりなさいとおつしやいましたのにすぐに私たちが入らなかったので、遠慮といふ事についてお話しをして下さいました。六時間目四年は漢文で御座いましたが、先生がお休みでいらつしやいませんでしたので、中村先生が蟬丸のうたひを教へて下さいました。かへりの唱歌は菊と夕の鐘と雲をいたしました。

四月二十六日　月　雨

昨夜から降り出した雨は、本日になつて益々どちゃ降りに成つた。又此雨で気候がずつと変つてなんだか火鉢がほしい様な日でした。昨夜から亦々市内電車が怠業仕出して今朝も引続いて通らない。務人、学生などはてく〳〵電車道を歩て行くので賑かでした。
さあこうなると山の手の乗客が多くて電車は満員で遅刻なすつた方が沢山あつたやうでした。
自彊術の時いつもの半数位しかなさいませんでした。
食後校長先生から塙保巳一の幼少時代―江戸に出て来る間のお話を読んで下さいました。保巳一は十才位から心の眠が開いていたから成功なすつたと云ふ意味でした。それから電車の怠業についてお話がありました。唱歌は海楼眺望、旅泊、箱根八里、小学校の先生も御一所にうたひました。雨は相変らず降って居りました。

四月廿七日　火　曇り後雨

凝念法の時行道を致しました。一年の方がおは入りになつて始めてだつたので大分まご〳〵なさつた様でした。お昼前に私共の着物を入れる為にわざ〳〵作つて下さつた箪笥が参りました。お昼の御菜はち

くわぶと蓮でございました。沢庵のわきに色のよい紅生姜がついて居りました。六時間目に電車で帰る人だけ帰電致しました。市内電車の罷業の影響で山の手も大そう混雑するからです。

今朝講堂の御椽側に出ました時、昨日の雨にあたりがしつとりとぬれ、飛石の上だけよいかげんにかわいて大層よい景色で御座いました。

四月廿八日　水　晴

凝念の後、靖国神社の方にむかつて黙祷致しました。奥田先生からお話がありました。

一、靖国神社大祭なれども休課せざる事。

その理由は、一家の主婦としては、どんな日といふことを念頭において、働く事が多いから、その修養の為。

一、整頓。

「和敬清寂」の中「和敬」はまあ、出来ていますが、どうも「清」がかけている様です。

食堂のテーブルの中に足袋を入れたり、更衣室に足袋をぬきっぱなしにしてあったり、どうも整頓が出来ていません。

今日は三十分ばかり時間をいたゞいて、更衣室をかたづけませう。

更衣室をかたづけましたので、みちかへる様にきれいになりました。お食後も、お話がございました。

みんなが気をつけて下さつたので、方々がきれいになりました。物置のごみ箱のまわりにごみが沢山おちていました。ごみをすてるまで、誠心をこめていなければいけません。をくづは、別にをくづかごにすてなければいけません。いろ〳〵工夫して、釘の一本位うつてもいから、みんなでよく工夫して下さいとおっしゃいました。

今日も中村先生がおみえになり、大そう嬉しう御座居ました。

明日はお休みにならない筈でしたが、その筋よりのお達しにより臨時休課になりました。

四月二十九日　木

靖国神社大祭につき臨時休業

四月卅日　金

凝念の後で今度の旅行について御はなしがありました。垣内先生の国語は三四年共今日から本を致しました。おひるは貝のつくだにと御豆腐のおみおつけ。この新学期が始りましてから少しの間は御不浄の草履がみだれていることが度々ありましたが、このごろはいつも大抵そろふ様になつていつても気持がよう御座います。

一年方とも大さう親しみがでゝ参りました。

・凝念の時の御はなしは旅行は房総の方に行きますからどこに泊つて汽車は何時のにのるかといふことを四年生が調べて月曜までにだす様に、そしてそれを参考にして下さるといふ様な事でした。

五月一日　土曜日

朝凝念法の後で奥田先生からお話がありました。それは昨日四年の人々が中村先生からよいお教へを受けた事についての事でした。

昨日四年の人が二三人お昼の時間にぶら〳〵として居った。それを御覧になった奥田先生が講堂の前の芝生の草を取っていらっしゃった中村先生のおてつだいをなさいとおっしゃったので、その人々はそこに行って手伝ひはじめた。中村先生はその時にお話をなさった。「私は卅日が誕生日なので、其の日には何か人に知られない所をしたり人に知られない内にしたりして陰徳をして居る。皆さんが来てして下さるのも有がたい様でかへって有がた迷惑である。

私がして居るのを見ない内にする様になれば結構です」と、「又誕生日に陰徳をするのは一昨年からやって居て、よいから皆さんにもおしらせしやうと思ひます」とおつしやつたので、四年の人共はこまつてしまって先生の所にお話をしに行ったのですが、「お誕生日の日になにか陰徳をするのはほんとによいとお誕生の日にはめで度と考へる前にお母様がくるしんで産んで下さって、此慮までにして下さったありがたみを味ふと言うことをお忘れ下さるな。この二つをまもる事を今日から実行をしませう」

かへりの唱歌が久しぶりにありました

五月三日

今朝は今村先生がお見えになつて自彊術や凝念法を見ていらつしやいました。今日から食事の時の食卓が変りました。お食事の後で奥田先生から椅子の音についてお話が御座いました。そして静かな勝手もとのお話をうかゝいました。

かへりの唱歌は渡辺先生がお居でになって、花や浦のあけくれ等練習して下さいました。おまちかねの旅行も房総の方はあるく所が多いので一時中止となり、箱根の方になったそうです。

五月四日

いつもの通りに中村先生の凝念法でした。今日は朝から雨で気持ちよく音をたてゝ居ります。お食事の後の椅子の音も気の故か静かになったやうでした。午後沢山お客様がお見になりました。

五月五日　水　雨

凝念の後、観音経をうたひながら行道を致しました。奥田先生からお話がありました。

一、箱根旅行の事

房総の方へ行く筈でしたが、色々諸都合上やめになりました。夏の旅行には信州の方へ行く筈なので、箱根へ行く事が出来なくなるので今度一泊で、箱根へ行く事となりました。

品川発、七時　強羅まで電車、仙郷楼へ十二時頃着、当日もしお天気だったら芦の湖を渡り、旧道を行く。旧道を通るときには、お大名になつたつもりで通る事。景色を見てふじきれいだとか、閑静だとか云うはかりでなく、地歴上にあった事を連想する事。

五時　品川着

いつれ、お家の方へお通知をさし上げますけれと先に皆さんにお話をして置いた方がお楽しみになるでせう。」

一、端午の節句

「昨日主事会があって、小瀬先生が三月にはこちらに来て御厄介になりましたから、端午の節句には是非きていたゝきたいとおっしゃいましたから、今日は行って小学校の子供達がどんなによろこんでいるかを見て、共にお祝を致しませう。」

一、体格検査

「中村先生がみなさんの体重を計った方がいでせうとおっしゃいましたから、今日すぐこれから自彊術の時に着る単衣物を持って学園の応接間で計り、かへりに小学校へ寄って参りませう。ではすぐこれから出かけませう。」

池袋の道は大そうひどく悪うございました。通学の方はさぞお困りの事でせう。応接間に行き計り、小学校の講堂へ行きました。狂言やら色々の余興があって随分面白うございました。女学校は二三の唱歌を致しました。沢山の五月人形がかざられてありました。後で五月人形を拝見し、お柏葉餅をいたゝいて帰った。小学校の方はどんなに面

白くまたどんなに嬉しかつたでせう。

かへりは雨にふられて急いて帰った。

一、御飯後のお話

「靴のお入用の方は豊島師範の前の久保にあるそうですからそこへ行ってお求めなさい。」薙刀はありませんでした。（園部先生が京都の武道大会にいらっしゃったので）かへりの唱歌は故郷回想、埴生の宿、この二つをうたってかへった。

五月六日　木　雨

今日も凝念の時行道をしました。桑の葉が此頃の雨の為に日一日と大きくなってゆくのに驚きました。そして緑かましてきます。

こんなやはらかい葉をお蚕にやつたらばと思ひました。どんなよい糸がとれるでせう。お昼には中村先生もいらっしゃいました。その内雨もやんだので元気のよい方は飛び出していらっしやました。

お琴の時今日は落合先生はいらっしやらずに石川先生と此間いらっしゃった方でした。旅行の御通知を頂いて帰りました。

五月七日　金　雨

凝念の後旅行のお小遣ひのことゝ、お家からたのまれたおみやけについてのお話か御座居ました。垣内先生の国語は今日から本を致しました。四年は午後弓がなかったので、三時間とも今朝習った平家物語の中にある家貞と忠盛のことについての感想を書きました。唱歌の時今朝のお話のすりものをいたゞきました。楽しい旅行が近づいてほんとうにうれしう御座居ます。

五月八日　土　雨

今朝四年は教育二時間とお茶の時間に、奥田先生のお友達の近藤医学士に看護学のお話をうかがひました。かへりの唱歌の後箱根は四、五日の雨で一二ヵ所橋が落ちたり又電車に故障か出来たりしたゝめ、旅行は一週間程延期致しますとおっしやいました。楽しみにしていた旅行がのひてつまりませんが、又同じ楽みを二度味れると思ふと又うれしう御座居ます。楽しみにして来週を待ませう。

五月十日　（月）　曇時々少雨

幾日も〳〵降りつゞいた雨が久しぶりでやみました。教室からながめると緑の葉が一そう濃くなった様でほんとに気持ちがよろしう御座います。つゝぢの花は今がさかりと咲きほこって居ります此の頃のを庭が一番うつくしい時でございます。

かへりの唱歌は今度英語会の時にうたふ田毎月と云ふ三部のをならひました。なか〳〵むつかしうございます。旅行は金曜日になりました。みんなたのしみに〳〵〳〵待ちこがれて居ります。今度はきっとよいお天気でございませう。

五月十一日　晴

今まで日を見た事の無いものが一時に日光をあびたように、今朝は生々とした好い気持でありました。今朝中村先生御いでになりませんでした凝念後奥田先生から「外から御見えになつた方には御挨拶するように、又授業中はふりかへって見るような事はしない方が好い」と云う御話を伺ひました。午後から暫く目で畑の手入を三年の方はしていらっしゃいました。英語会には「花」を歌うようになりました。

五月十二日　水　曇後雨

朝凝念の時は行道をいたしました。後奥田先生が今日はお茶つみをしていたゞきますか、今までの様に無駄ばなしをせすに、一葉〳〵観音様をねんじ思ひをこめてつんで下さいとおっしゃいました。朝の二時間は、二三年の方々がおつみになりました。一年と四年はいつもの

様におけいこが御座いました。お食事後奥田先生は、朝二時間二三年の方がおつみになったお茶は一つ〳〵に観音様をねんじながらして下さったので御座いますから、今度つくっていたゞくのは四年生におねがひいたしますから、一枝のはにも思がこもっていると思って丁ねいに、つくって下さい。とおっしゃいました。

午後からは四年生がお茶にし上げました。いゝかほりかする葉が黒くなってだん〳〵仕上って行くのかうれしゆう御座いました。後三年の方に手つだっていたゞき、一つ〳〵奥田先生におしへていたゞきましたお経の文句をとなへなからいたしました。

すんでかへる時には又雨がふり出してきた様で御座いました。

五月十三日　木　　雨後晴

せつかく雨がやんだので、旅行には晴天にしてしまひたいものだと心に念じていた甲斐あつて、午後になると今までざあ〳〵降つて雨がやみ、曇っていた空も晴て日光が輝き出しました。さあ皆さんは大よろこび、「明日は大丈夫ね」とさゝやき合って居りました。中村先生も此日光をあびながら私共を参っていて下さる事でせう。午前中は一二年の方がお茶を製造なさいました。午後は四年生が致しました。先生方の工夫で別の仕方でしましたので幾分かよい茶になりました。

おひるの食後奥田先生から旅行に付いての注意、汽車の発車時刻、お茶に付いてのお話が御座ひました。皆様がおかへりの時のお顔皆楽しそうでした。明日はどうかして晴天にしたいものです。

五月十四日　　金　　晴曇

たのしみにしていた箱根旅行もいよ〳〵今日となりました。昨夜降っていた雨もやみ、今日は晴れました。皆様のお顔には喜びが満ちて居りました。七時五十九分、汽車は品川駅をはなれました。はじめは少しこんでをりましたが、横浜ですき、こしかけることが出来ました。

国府津で下車して、電車にのりました。小田原には近藤先生がいらっしゃいました。こゝでお菓子をしいれました。途中で、中村先生と御一緒になり、久しぶりでお目にかゝつた様な気がして嬉しうございました。湯本から登山電車にのりました。思つたよりもこわくはございませんでした。強羅でおりて、お弁当をいたゞきました。強羅公園によりました。大涌谷までは随分変な匂が致しました、大涌谷のお茶屋でお茶をのみ、元気を快復して下りました。岩かゞみの花が沢山咲いていてきれいでございました。宿についてからわらびをとりに行きました。小さいわらびが沢山とれました。お内へのよいおみやげになります。学校でもお昼飯の時、皆様のおとりになつたのを頂く事が出来ませう。お食後、例により茶話会を開きました。

茶話会次第

一、合唱　　全体　　八、独唱　　三、牧野
二、独唱　　一、木幡　　九、余興（学校）　二年
三、唱歌　　一年　　一〇、合唱　　四年
四、余興（余興の相談）一年　　一一、独唱　　三、佐川
五、唱歌　　一年　　一二、合唱　　全体
六、合唱　　三、柳沢、小野うら
七、独吟　　三、伊藤　　以上

何時もながら大そうおもしろうございました。終りに第五章をとなへて、おやすみに致しました。お天気もよく、皆様も大元気なので何よりも嬉しうございました。明日は、風さへなければ、雨が降っても、舟にのせて下さるそうです。明日は、五時起床、七時出発。

五月十五日

たのしい旅の夢からさめて、皆五時には起きてしまいました。予定通りに支度も出来て、七時にはお宿を出ました。

いつもながらに鏡のやうな美しい湖を見た時、新しい方はさぞ〳〵およろこびになったでせう。私共でさへ前に来た時より又一層の感歎の声をあげましたもの。いつもの道は出水したそうで裏の方をまはって行きました。此処も大へんな水で小さい方達はおんぶして渡った位です。お舟は五つでそれ〴〵わかれました。する〳〵とした水の面をのんびりとした気持で渡りました。どの舟も〳〵〳〵合唱でにぎやかです。四方の山々はきれいにお掃除でもしたやうになめ〳〵として居ります。かれこれする間についてしまいました。

時間が少いので箱根神社にはよらずにすぐ旧街通に向いました。思ったよりもごつ〳〵ないやな道でした。こんな処をお大名が通った等ちっともしんぜられません。一寸のぼっただけであとは下り道でした。昨日にくらべると楽ですが、石でごつ〳〵なのでまだ〳〵楽とまでには行きません。きれいな〳〵〳〵山の間を通ったり清い〳〵渓流を渡ったりして、二時間位で湯本の今村さんのお宅につき御弁当をいたゞきました。例によってお菓かを一袋づゝいたゞきました。国府津に行き時間が余るので海岸の方を散歩しました。波を打手によろこぶ人、きれいな石をひらふ人、皆それ〴〵の事をして一時は海岸をにぎはやせました。予定の汽車で東京へ向ひました。はじめはすいて居りましたが藤沢あたりから込んで来ました。

何のさはりもなく一人の落伍者もなく無事に東京につきました。今度の旅行には皆きれいな真心のこもったお土産やお土産話をもってかへりました。今朝奥田先生からのお話で、昨日もって来た私共の一生懸命に作ったお茶は校長先生が大へんお気に召したとの事私共一同よろこぶべき事です。

五月十七日　月　晴後雨

凝念の後、奥田先生の御話がありました。今度の旅行は好天気で仕合せであったといふ事、二年の余興の事に就いて御教訓を受けました。

お昼御飯の後でお話。今度の旅行にお小遣ひをつかはなかったと中村先生もおよろこびになつていらっしゃった様ですとの事、ですから級当番がいくら遣ったかをしらべて私の所へもって来て下さい。とおっしゃいました。帰りの唱歌は「花」「故郷回想」「ローレライ」「荒城の月」みなさんのおかへりになる頃ポツ〳〵と雨がふって来ましたが、すぐやんでしまひました。

五月十八日　火　晴後くもり

今日は先生はいらっしやらないと思っていたら、いらっしゃったのでうれしゆう御座いました。お昼の御飯後方々の組で唱歌のおさらひをしました。観世先生は今日はお休みでした。帰りの唱歌の時は「花」を二部で合せて窓の友の内にあるまた私達の習はないのを（夏の興、勇気、夕暮）渡辺先生におしえて頂きました。

皆様がお帰りになる頃はポツ〳〵降りそうになりました。

五月十九日　水曜日

しばらく御見えになりませんでした園部先生がいらっしゃって、久しぶりで薙刀が御座いました。三四年は仕合の御稽古をして頂きました。帰りの唱歌は勇気、旅泊、めくらとつんぼの三つを致しました。このごろは御天気具合がよろしくて結構です。

五月廿日　木　晴曇雨

凝念の後行道を致しました。おひるの御飯は茶飯でございました。そのお茶は此間から私達か一生懸命になってこしらへたので御座居ま

す。三四年のお料理は今まて習ったうちのおさらひで、皆の一番すきなのを三種づゝ致しました。

五月廿一日　金　晴夕方より雨

凝念の時奥田先生よりお話がございました。それは販売部のお金が火曜日から水曜日にかけて二拾六円五拾銭紛失した事でございます。その一番もとは私と三浦さんの不注意からなのでございます。今になってみれば何故そんな大金を鍵のないひきだしなどへそのまゝ入れて置いたのかと思はれますが、それまではそんな事に少しも気が付きませんでした。こんな事で罪もない皆様方をうたがわなければならない様になってしまったのでございます。奥田先生のお声は曇って居りました。開校以来ためしのないこんな事件をひきおこして先生方に大へんな御心配をかけ、皆さま方にも御迷惑をかけて何とおわびを致してよいか分りません。私は今度の此の事件で責任の重さと云ふ事が心にしっかりとやき付けられました。これを一生の教訓として決して二度とこんな事は致しませんから皆様どうぞおゆるし下さいまし。

おかへりの唱歌のとき、明日お天気だったら一日がゝりで学校中の大掃除をすると云ふお話がございました。かへる時に雷が鳴り出し、大粒の雨がパラ〳〵降って参りました。大部分の方は傘なしでお困りになったことでございませう。

五月廿二日　土曜日　晴

昨夜の雨もなこりなく晴れて今日は大へん好天気でした。それで大掃除をする事になりました。朝すく凝念を致しました。凝念の後で奥田先生のお掃除に付いての御注意がございました。一つ拾へば一つ分たけきれいになるといふ最沙のおはなし、みえないからと云わずに、すみ〳〵まできれいに念を入れてするといふ古田織部のおはなし、掃除の後のあとかさりの事、と三つの御注意でした。すぐ割りあてられた場所をていねいに初めました。午前午后とわけられました。おひるになっても午前の分が出来切れないところが多うございました。

校長先生もいらしてずぼん一つにおなりになって一生懸命手つたって下さいました。工夫して下さいましたので食事の時大へん気持ちがよろしうございました。

おひる御飯の後でお掃除の仕方について御話しが御座居ました。それは少しもいやな様子なく一生懸命にしているのは、大へん結構ですが上の方の方はもう少し手早くかたつける様に工夫したらどうですかと、食後三十分休憩して取りかゝりました。

午後はさつさと致しました。四時過きにはきれいにかたつきました。学校中が大へんきれいになって私たちの心も清々しました。構内の掃除とともに心の掃除も出来て今日は大へん愉快に終りました。

かへりにおやつをいたゝき誠心をこめてきれいにした学校を後へ清い気もちで家路をたとりました。

五月廿四日　月　くもり後雨

販売部のとだなが榨室にうつったので、更衣室の入口が大分ひろくなりました。三年生と一年生の箪笥が出来上って参りました。一昨日きれいに大掃除をしましたので、今日からは気がついたらなるたけきれいにするように御話を伺ひました。

食事後奥田先生から「静寂」と云う事に付いてお机の上をふく雑巾と足をふくのと一緒にならないように、又仕事をする時には思をこめて何でもするようにと云うお話を伺ひました。午後から一年の方には雑巾をぬって頂きました。かへるころ雨がふつて参りました。

五月二十五日　火曜

朝中村先生の凝念で御座いました。午前中よいお天気で御座いましたのに午後から雷がなり出しました。渡辺先生がお休みで御座いましたので、四年は午後から二時間は散歩で御座いました。

今日は火曜日なのでかへりの唱歌は御座いませんでした。

五月廿六日　水　晴

此ころ雷が鳴ったり夕立が降ったりするので、やう様夏らしい気分になりました。一時間目頃から作業室を毀し始めました。瓦を取り去り床もはがしはじめました。食後皆外へ出てなはとびをし致しました。四年生は力をためすために（―空白―）をしました。二間以上ほれなければ落第ですとおっしやったが中々力の無人には出来ませんでした。朝の三時間目から午後の終りまで各級の長刀なのでエー、ヤー、トウの力のこもつた気合がきこえました。お通知をいたゞきました。それは徹夜会の事と小遠足茶話会の金額の事などの御通知でした。

帰へりの唱歌は「夏の興、勇気、ローレライ」の三つでした。

五月廿七日　木

桑の緑が日に増し濃くなつて参ります。お昼に厚見先生が御一しよに召上りました。お菜は御さつでした。

午前中に色盲の検査が御ざいました。帰りに奥田先生の御話が御ざいました。明日の徹夜会には和服を着る事、そして靴の方がよろしいと申されました。それから四年が明日の家事の時間に夜のお食事の用意をし、会計は大きな組がする事になりました。

五月廿八日　金　晴後雨

午後、三年、一年、二年、四年の順序で体格検査を致しました。四時半頃、私共のこしらへたお弁当を持つて出かけました。

雨がポツポツおちてきました。総持寺にて下車。お部屋は広々として大そう心地がようございました。炊事場を見せていたゞきました。広いのに、おどろかされました。そこで、一日に一万六千人分出来るそうです。お米は六十俵。お部屋でお弁当をいたゞきました。それから夜座に参列致しました。（―空白―）のおりた方も二三人あつたやうでした。座禅の間に、長谷川監院のお話がありました。

お部屋で、曹洞宗大学教授祥雲氏のお話を伺ひました。お話がすんでから、お菓子をいたゞきました。それから中村先生が、（―空白―）をしてみせて下さいました。夜もだん〳〵更けて十二時になりました。

（五月廿九日）

すこし遊んでから観音経を読み、十分間程凝念法をしました後、さつき中村先生のして下さった（―空白―）を宮岡先生と四年の人が一人試みて見ました。誰でも思って居る心がよくその方にむくとおもしろいやうにあたります。先生からそれについてのお話がありました。かれこれする内に二時半近くなったので、そろ〳〵顔を洗ったり髪を結ったりはじめました。大抵出来た頃にお仿さん方も起きていらっしやいました。三時半から昨晩行った座禅堂で座禅を致しました。今朝は監院の方がお仿さん方一人々々に何かおつしやりなからぴしやり〳〵七十五にも見えないおそろしい音がしました。座禅がすんでから本堂にいって朝のおつとめがはしまりました。途中で一人〳〵お焼香しました。大分長かったのでねた人もあったやうでした。だん〳〵とあかるくなるのが鐘の音のしづかな暁にひゞくのがなんとも言へぬよい気持でした。お部室にかへり御飯をいたゞきました。二汁二菜でした。一通りお寺の中を拝見してかへりました。

電車の中では大分いねむりが盛んでした。

今度の徹夜会はおなじお寺でも豪徳寺はほんとの山寺の感じがあり

ましたが、今度のは昔のお家の土合や大きいお寺の感じがあって得る所が一曽（ママ）多いやうです。

五月卅一日　月　曇後雨

今作業室を毀して居りますので当分の間自彊術が出来ません。参観の方が二人お見えになりました。食後中村先生からお話が御座いました。「園芸雑誌をみたらあの沢山の木などをいぢめるみの蟲の利用法が書いてありました。それはみの蟲のみのゝ両端を切り中のむしを出してみのについて居る木や葉なとをきれいにとつて幾枚もつぎ合して袋物や色々の物をつくるとよいといふ事が雑誌に出て居りました」といふ事を伺ひました。かへりの唱歌は「花」だけでした。後でお話がありました。衣裳箪笥が出来ましたから着物をもつてきて入れる事。そして制服を着て来る事になりました。

いくら方々をさがしてもなかった二十六円五十銭のお金が今二十五円でゝまいりました。みんな飛んでよろこびました。

六月一日　火　晴

いよ〳〵もう六月になりました。そして夏に向ひました。今日は中村先生の凝念の時観音経ではなくて心力歌を歌ひました。

お昼の御はんの時奥田先生よりおはなしが御座いました。それは改良服をきつと着て来る様にといふお話で御座いました。後で此間おつしやった足袋、袋のこしらへてある人と、改良服を着て来た人をしらへました。お仕舞の時は参観の方か来ていらっしやいました。水組へ

六月二日　水　晴

朝は奥田先生かお金の有った事のおはなしが御座いました。そして本の所においておいたといふ事は元の心にかへってその方はさぞよろこんでいらっしやるでせうといふお話で御座いました。作業室かお引越しをしたので長刀は皆外で致しました。中村先生もいらっしやいました。帰りの唱歌は夏の興、我国兵士、旅愁を致しました。英語会のプログラムと御案内を頂きました。今日は改良服かそろひました。

六月三日　木曜日

月曜日から御引越をはじめた作業室は今日はすつかり垣根のところまで行きました。物置も。

御ひるはいつもの通りに御うどん。皆御そろいの改良服をきているとみた時何となく気持がよう御座います。畑のスイトピーヂキタリス等の花が多田先先生の御骨折で美しく咲きました。

六月四日　金

朝の間いつもの通りに授業をして、午後から中学の講堂で明日の英語会の練習をいたしました。御ひる少し前に参観人が沢山御みえになり御はんをさし上げました。食後大いそぎで片づけました。

花を一番さきに、それから小学生のをやりその次中、実専、女、等のをしました。今年は小学校のがいつもより多い様です。小さな方々が御はなしになるのは愛らしう御座います。（花の伴奏は渡辺先生がして下さる筈でしたか、御病気の為四年の今村さんとなりました）

六月五日　土

今日は第一土曜なので四年は朝から看護学で御座居ました。午後から病者の食餌の実習を致しました。かへりの唱歌は花だけ練習致しました。六時頃中学の講堂に参りました。そして英語会は正六時半から始まりました。雨か降るのでお客様が大変少なう御座居ましたから、のこって見て居たい方は花かすんだ後又講堂にはいりました。けれどもだん〳〵お客様が多くなりましたので専門学校の *Speech* のすんだ後女学は全部かへりました。かへる頃には雨はもうやんで居りました。

六月七日　　月

英語会も無事にすんだので、今日は一年の方が久しぶりで皆呑気な顔をしていらっしやいました。作業室の屋根に今日やっと便利瓦が敷れました。凝念の時行道を致しました。午後から又ガラス戸棚が参りました。今日は今まで家事室にあったガラス戸棚を一つ販売部に持って来て、今までの販売部のは図書室に持って参りました。かへりの唱歌は夕暮、岸の桜、夏の興で御座居ました。

六月八日　　火　　晴

凝念は校長先生が箱根にいらっしやってお留守なので奥田先生でございました。さうして「校長先生はいつも女学校の事を思って居て下さるのです。今週中はあちらにいらっしやるのですからよい歌でも出来たらお送りしてなほしていたゞいたら、よいでせう」とおっしやいました。渡邊先生は御病気でお休みでございましたが今日からお見えになりました。お仕舞は先生の御都合で午前中になりました。

今日はかなり暑うございました。窓から吹きこむわづかの風に喜ぶところなどはすっかり夏でございます。

六月九日　　水

観音経の時は行道を致しました。此頃食後のお休みになわとびがはやります。一年の方等毎日していらっしゃいます。四年では出る人が少しございます。食卓には花畑のスイートピース、やくるま草等がかざられて食事をしながら庭の花をみて居る様です。

六月拾日　　木　　晴

毎日好い天気つゞきです。作業室も屋根がふかれました。来週あたりは長刀も中で出来るでせう。午前中参観の方々が大勢いらっしやいました。奥田先生が御案内していらっしやいました。私たちは先生がお客様を御案内なさってどこへいらっしやってもこの通りでございますと、立派におっしやられる様常に心かけなければなりません。それは人にみせる為ではありません。自分達の修養のために。

六月十一日　　曇後雨

今日から梅雨に入りました。何となくじめ〳〵とした日です。今日は大沼先生はおやすみでした。国語室の前のお池の水蓮が咲き初め、椿の葉の間から若々しいみどりの葉が出て参りました。私達のうえたジヤガ芋も大分大きくなり、白い花がさき出しました。

帰りがけに奥田先生から御不浄のお掃除の仕方について「お床の間をふくような気持でそれから絞った時はからつとふきあげた様に」と云う御注意をして頂きました。「茶味」が出来ましたので図書室におかれました。帰るころから雨がふり出して参りました。

六月十二日　　土曜日

凝念の時奥田先生が朝学校の中を見てあるきましたら大へんにきれいでしたから、これからもいつでもきれいである様に心かけて下さいとおっしたいました。行道をいたしました。午後二時ころに中村先生が箱根からおかへりにすぐ女学校へいらっしやって下さいました。私たちは、おはかきをいたゞきましたのでお礼を申し上げました。

一番終りの一年四年の園芸の時は先生も御一所になさいました唱歌のすんた後みんなそろって「おかへりなさいまし」と申し上げました。

六月十四日　　月　　曇

入梅に入ってから三日になりますのに一向雨が降りません。今日は寒うございました。作業室の跡へ植木が沢山植込まれましたのでほんとうによくなりました。お掃除の道具が揃ったのでこれから気を付けてごた〳〵のならぬ様にしませう(然しまだ公には申しませんでした)

帰へりの唱歌はロオレライの三部合唱と故郷、演習、いづれも新らしいのを（渡辺先生から）致しました。

六月十五日　火　曇

凝念の時中村先生はいらっしやいませんでした。

食後全体集ってロオレライをうたひました。午後各組の自習時間に身長と胸囲とを量りました。風が強く吹いて居りますので机の上がザラ〳〵して気持が悪うございました。

六月十六日　水　雨

昨日からの風は相変らず吹いてをります。お昼頃から雨が降ってきました。そのため薙刀の午後ある級は作業室でなさひました。可愛らしい「谷間の姫百合」を一年から、四年まで、みんなに久子先生が下さいました。ほんとうに可愛らしい花です。帰りの唱歌は、「ローレライ」をさらって、それから、「故郷回想」と「夏の興」を致しました。雨風が強くなって、皆様お帰りの時はさぞお困りになつた事でせう。

六月十七日　木　曇後晴

昨日あまりはげしく雨が降りましたから、今日はからりと晴れた気持よいお天気になるでせうと思って居りましたら、朝になってもまた大そう曇って居りました。凝念の時行道を致しました。朝の御挨拶後で校長先生や其他諸先生がおみえになった時、心から喜べる人は心に病ましい事のない人で、先生方のお顔かみえるとにげなければならない様な人は心にくもりの有る人です。常に喜んで先生のおそばへ行って先生の御指導をいたゞく人でなければなりません。とのお話が有りました。お庭の小梅の実が熟して、早土に落ちたのも御ざいます。午後三四年の作った冷たいお菓子を僅か許り諸先生に差上げて召上っていたゞきました。音楽会のお通知を頂きました。

今日は十時頃からお天気もよくなつて大そうよい気持で御ざいましたけれども、いつもより余程暑うございました。

六月十八日　金　曇

今日は一日ぼんやりとしたいやなお天気でした。

凝念の後で奥田先生からおはなしがありました。それは先生方とだん〳〵なれてくると遠慮がなくなる。そしてしらず〳〵に不作法な事をする。なれても遠慮をする時は何處までもしてすると言ふのでした。図書は全体お休みでした。午後四時から臨時渡辺先生がお出で下さって唱歌の練習がありました。どうも多勢でやると大きくなる所や小さい所が揃ひません。私たちがかへってから草川先生がバイオリンの練習なさったようです。

終り

六月十九日　土　雨後曇

昨夜からの雨で今朝はなんとなく落付いて居りました。凝念の時奥田先生からお話が御座いました。

人が物をしまふのを忘れて、置いてあった場合なと、それを見てかたつけで置いてあげやうといふ和の心持ちがなければいけないという事。着物を大切に扱ふといふ事の二つでした。月曜から出来上がった作業室で久しくやめてをつた自彊術をすることになりました。

かへりの唱歌は夕の鐘、夏の興、ヲーターローを致しました。帰りに三四年と唱歌の練習をいたしました。

六月廿一日　月

今朝は久しぶりで自彊術を致しました。今日のおひるは二年の方が作って下さいました。午後四年は五時間目に他の組は帰りに明日の唱歌の練習をして頂きました。おしまひもさらひました。明日の音楽会には先生達がいろ〳〵の事をして下さいますので皆楽しんで居ります。

六月二十二日　火　曇後晴

待ちにまつていた音楽会もいよ〳〵今日となりました。中村先生の凝念でしたけれども先生はお加減がわるくてお出になりませんでした。凝念の後奥田先生のおはなしが御座いました。

それは、中村先生はいらっしやいませんでしたけれども、心の先生には御心配をかけぬ様、そしてまのぬけた所のない様どん〳〵する事といふ様なお話で御座いました。すぐそれから昨日おっしやった様にお掃除を致しました。一生懸命したので大へんきれいになりました。食堂は会場に作ってあるので作業室でおむすびを頂きました。お食後奥田先生の御話は御座いました。

それは音楽をさまたげない様に外の変な音は出さない様にといふおはなしでした。そしてプログラムをすりました。

音楽会目次

第一部

一、合唱「ローレライ」　全校
一、ピアノ「ソナタ」　一年、宇川敏
一、唱歌「うまし夢たのしわが家」　一年生
一、ピアノ「ソナチネ」　三年小野愛
一、唱歌「たよね献花輪」　二年生
一、ピアノ「ソナタ」　四年佐伯清
一、唱歌「春のうつみ森の小鳥」　三年生
一、独唱　羽衣　梁田店作　小林先生
夕の鐘　ホスター作
荒城の月　瀧廉太郎作
一、バイオリン　ベルソーズ　ゴダール作　草川先生
一、唱歌「星、花の少女」　四年生
一、独唱「ホエヤエバーユーウオーク」　スパックマン先生
ベンデル作
メヌエット　ベトーフェン作

第二部　琴

一、七草　香取、小野、井上、今村、馬場
一、六段　後藤、中村、桜井、今村、小野、牧原、松村
一、須磨の嵐　落合先生

第三部

一、敦盛　二年　今村厚　鼓　後藤ふみ
一、蝉丸　三年　伊藤和　鼓　新藤ふき
一、玉葛　四年　二宮淑　鼓　中村みさ
一、高砂　観世先生　弘誓先生

茶菓　以上

開会は耐子さん、閉会は柳沢さんでした。

開会のおことばの様に私たちのは未熟でも先生方のか皆よかったのでうれしう御座いました。四時半事なく会はすみました。

今日は中村先生の変りに学園主事の児玉先生がいらっしやいました。

六月廿三日　水　曇後雨

朝凝念の前から昨日の音楽会の会場であった食堂の後かたずけを致しました。自彊術の時間までかゝりましたので自彊術はございませんでした。今日は昨日学校中の大掃除をしたのでどこに行ってもきれいでした。かへりの唱歌は勇気、夕暮、荒城の月でございました。

六月二十四日（木）　曇

凝念の時、奥田先生から明日の地久節についてお話がございました。
午前の授業がすんで掃除をしやうとして居ると講堂にあつまる様におっしやったのでそこで静かにお待ちして居りました。そして浮の宮殿下の御養育係山内大尉より皇后陛下の御日常のお仕事、御養蚕の事などについてお話しがございました。畏れ多い事ばかりで、御徳の高くあらせられると云う事が一さうしみ〴〵と感じました。それでお昼の御飯がおそくなり、午後の授業は一時半から始まりました。大尉はお茶室で御懐石を召し上げました。四年生は五六時間目に校舎中御備品を調べました。

六月二十五日　（金）　曇後晴

自彊術・凝念がすんでから直に十二ヵ月の封筒張にとりかゝりました。皆一生懸命にするのでどん〳〵とはかどり、一組づゝ分けて置くのが中々急がしうございました。一日つゞけてする筈でございましたが小学校の音楽会に行く事になり一時少しすぎに出かけお客様になり、合唱、独唱、ピヤノ、お伽歌劇など伺ひしました。草川先生のヴァイオリン、四年男のお伽歌劇「桃太郎」、五六年女の「うかれだるま」など最も面白うございました。女学校にかへってから講堂の後かたづけをし、三年生のお心づくしのお三時をいたゞきました。丁度熊ヶ谷の女子校へお話しに入らっしやって御かへりになった奥田先生もご一しょに召し上り、後でおみやげ話しを伺ひました。

六月二十六日　（土）　曇後雨

昨日は地久節を祝ふ様にお天気になりましたが、今日は又曇って居り二時過からふり出しました。かへりに講堂に集り尼港で惨殺された七百余名の同胞の為にしつかに観音経を読誦致しました。それから心力歌第八章をとなへました。向うへ行っていらっしやった方はほんとにおきのとくな事です。さぞくやしくいらっしやった事でせう。

六月廿八日　月

朝からむしあつい嫌な風がふいて居りました。今日は二年の方の御料理して下さった「おから」を御ひるに頂きました。帰りの唱歌を渡辺先生にして頂きました。
旅行費は一日から三日までに出す事。
荷物を一日の夕方までに学校にもつて来る事。
と云うけい字が出て居ました。割烹室の入口の所を大工さんがしきりに手を入れて居ります。近いうちにきれいになる事で御座居ませう。

六月廿九日

凝念は中村先生がいらっしやいませんでしたので奥田先生で行道をいたしました。朝より相かわらずいやな雨が降って居りました。割烹室の前に戸が立つ様になりました。帰りに唱歌は御座いませんでした。

六月卅日　水　晴

もう梅雨があけたのでせうか本当によいお天気でした。久子先生がお休みですので四年、一年は裁縫を致しました。旅行の荷物も五六つ持っていらっしやった方がございました。今日旅行のお話で大へんですこと。更衣室に作業服掛が出来ましたので大へん便利になりました。帰へりの唱歌は懐故郷、演習をうたひました。

原文にできるだけ忠実に記したが、読みやすいように句読点を適当につけ、また漢字は原則として新字体によった。また、当番の生徒名は、削除した。

家政学部家政学科
＊家政学部家政学科卒業生